

豪雪時における新聞報道について

○高橋 陽子, 苫米地 司 (北海道工業大学)

1. はじめに

積雪地域に住む人々の雪害観の形成は、雪害現象の報道のされかたに大きく影響を受けると考えられる。このようなことから、本研究では1996年のほぼ同時期にアメリカ北東部と札幌周辺部で発生した豪雪を対象に、両国における豪雪時および豪雪直後の新聞報道がどのようになっているかを比較検討することを試みた。この比較検討に用いた新聞は表1に示すように、アメリカ北東部についてはUSA TODAY、札幌周辺部については北海道新聞を用いた。

表1 本研究で扱う豪雪

豪雪の発生地域	降雪日 降雪状況	新聞名	対象とした期間
札幌周辺部	1996年1月8日 降雪(53cm)+吹雪	北海道新聞	1996年1月9~11日
アメリカ北東部	1996年1月6日~ 降雪+吹雪	USA TODAY	1996年1月9~11日

2. 研究結果

2.1 報道写真について

1996年1月9~11日の3日間に新聞に掲載された報道写真をみると、USA TODAYでは豪雪により車の通行が不可能になると人々が道路の中央を歩行でき、道路が人々に開放されている様子や子供達が雪で遊んでいる様子等が多く掲載されている。一方、北海道新聞では人身事故現場の状況、人々が満員列車に乗り込む様子、排雪場が不足している中での除排雪作業の状況等が多く掲載されている。このように、両国における新聞に掲載された報道写真は、その内容に大きな差異が見られる。USA TODAYでは、豪雪直後にも関わらず雪害現象を直接的に示す報道写真が見られず、豪雪による生活の変化を示す報道写真が多い。これに対し、日本では雪害現象を直接的に示す報道写真が多い。このような報道写真の差異が、雪害観の形成に大きく影響を与えるとともに雪対策上の施策にも大きく影響を与えるものと考えられる。

2.2 豪雪記事のタイトルおよび内容について

前述のように、アメリカと日本の新聞における報道写真に大きな差異が見られた。報道写真における差異の背景を探ることを目的に、新聞記事のタイトルおよび内容について比較検討した。USA TODAYおよび北海道新聞に掲載された豪雪記事における代表的なタイトルを表2に示す。これらのタイトルおよび記事の内容についてみると、以下ようになる。USA TODAYについてみると、①は豪雪のために列車が不通になり、車は渋滞の状態であるが、雪が積もったためにスキーでの移動が可能となり、交通機関に頼る必要がないというものである。②は豪雪のために飛行機が運休し、旅客がBanger町のホテルに宿泊することを強いられ、ホテルにとっては約\$4000の臨時収入があったという喜びの記事であり、③は豪雪により交通機関が運休し外出が不可能になると、家の中で考え

事をする余裕ができ、そのことから詩が頭に浮かんでくるという内容である。このように、豪雪直後でも雪害状況を全面に報道するのではなく、生活の変化を中心とした「親雪」的な報道が多いことに特徴がある。これに対し、北海道新聞では人身事故をはじめ交通麻痺、通勤や除排雪作業に対しての苛立ちなど、豪雪による被害状況を述べている記事が多く、雪害現象を全面に出した悲壮感の漂う内容が特徴的である。

このように、アメリカでは雪に対して親しみを持てるような報道のされかたであるのに対し、日本では雪に対して逆らう印象を与える報道のされかたをしている。

表2 豪雪記事のタイトル

	USA TODAY	北海道新聞
1996年 1月9日	①ニューヨーク、歩行者にスピード移動 In New York, pedestrians in fast lines ②Banger町はコンコルドの立ち往生を歓迎 Maine town entertains concord's stranded ③雪は力と詩情を見せつける Snow shows off its power and poetry ④暴風はさらに多くの都市に傷跡 Storm slaps more cities ⑤交通機関マヒ状態 By train, plane, car: Not very far	①進めぬ除雪にいらだち ②荒天 交通機関に乱れ ③札幌道、国道が不通 ④JR運休、536本に ⑤ホテルにドカ雪効果
1月10日	⑥4WD威力発揮 4-wheel-drivers strut stuff ⑦立ち往生の旅客、右往左往 Stranded passengers scrambling for way out ⑧危機に直面、経済報告 Economic reports are hoping for a lift ⑨豪雪、東海岸に集中 Rest of nation shrugs off East Coast storm ⑩暴雪、車輛の価値を示す Storm helps justify cost of vehicles	⑥暴風雪、交通網混乱続く ⑦いらだつ札幌通勤者 ⑧悪質な放置車「たまらん」 ⑨除雪車、フル回転 ⑩雪におびえた生活弱者
1月11日	⑪気流のうねりが逆 Jet stream's twists turn the tables ⑫昨年とは全く違う今年の冬 Winter '96 looks nothing like '95 ⑬航空完全復旧近し Airports almost back on top ⑭暴風による損害、増加の一途 Losses from storm continue to mount ⑮通常の郵便配達-まだ数日 Normal mail delivery still days away	⑪札幌、小樽平年の2倍 ⑫交通網、徐々に回復 ⑬融雪槽に落ち死亡 ⑭不安はらむ軟弱路盤 ⑮排雪トラック100台もたりぬ

3. まとめ

本研究では、豪雪時における新聞報道は人々の雪害観の形成に対して影響を与えるものと考え、ほぼ同時期にアメリカ北東部および札幌周辺部で発生した豪雪を対象に、1996年1月9～11の期間にUSA TODAY および北海道新聞に掲載された豪雪記事を用い検討を行った。その結果、アメリカと日本では豪雪時における新聞報道に大きな差異がみられ、それらは新聞に掲載された豪雪に関する報道写真およびタイトルにおいて顕著に現れていた。ここでは、新聞報道の仕方が人々の雪害意識に善くも悪くも影響を与え、それらが雪害観を形成させると考える。今後は両地域の社会的背景や気象条件を考慮し検討を行う必要があると考える。

なお、本研究の新聞収集にあたっては、北海道開発局開発土木研究所道路部長の石本氏にご協力頂きました。記して感謝の意を表します。